



# 令和8年度 果樹情報 第11号

(令和8年8月19日)

福島県農林水産部農業振興課



## 1 気象概況 (8月前半、果樹研究所)

平均気温は、第1半旬が22.7℃で平年より4.1℃低く、第2半旬が26.4℃で平年より0.2℃高く、第3半旬が23.6℃で平年より1.8℃低く経過しました。

この期間の降水量は112.5 mmで平年比186%と平年より多くなりました。日照時間は57.4時間で平年比56%と平年より少なくなりました。

## 2 土壌水分 (8月16日現在、果樹研究所)

8月16日時点の土壌水分(pF値：果樹研究所なしほ場：草生・無かん水)は、深さ20cmで1.9、深さ40cmで1.6、深さ60cmで1.5となっており、深さ40cm、60cmでは過湿状態です(図1)。

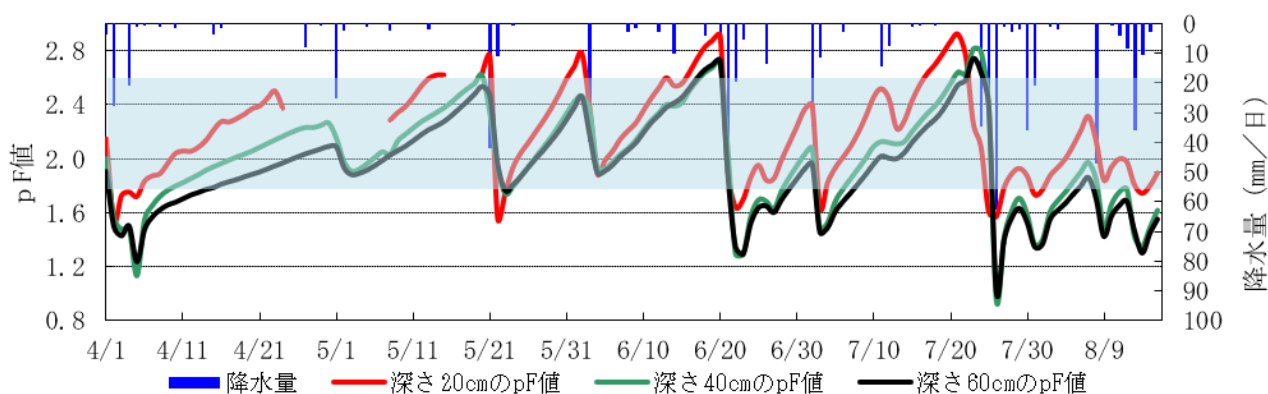


図1 土壌 pF 値の推移(果樹研究所なしほ場：草生・無かん水)

図中の網掛け部は、適湿の範囲(pF1.8-2.6)

## 3 発育状況 (8月17日現在、果樹研究所)

### (1) もも

#### ア 果実肥大

果実肥大を暦日で比較すると、「ゆうぞら」は縦径が80.2 mm(平年比114%)、側径が88.0 mm(平年比119%)と平年より大きい状況です。

満開後日数で比較すると、平年よりやや大きくなっています。

#### イ 新梢生長

満開後120日における「ゆうぞら」の新梢長は19.2 cm(平年比114%)と平年より長く、展葉数は18.0枚(平年比113%)と平年より多く、葉色は平年並、新梢停止率は97.5%で平年並でした。

#### ウ 収穫状況

「あかつき」の収穫盛期は7月25日で平年より7日早くなりました(表2)。果実の大きさは395 gで平年よりかなり大きく、糖度は13.0° Brixで平年並でした。

「まどか」の収穫開始日は7月28日で平年より10日早く、収穫盛期は7月31日で平年より11日早くなりました(表2)。果実の大きさは394 gで平年より大きく、糖度は12.7° Brixで平年より低くなりました。

「川中島白桃」の収穫開始日は8月10日で平年より10日早くなりました(表2)。

表1 ももの新梢伸長（満開後 120 日）

| 品種   | 新梢長(cm) |      |     | 展葉数  |      |     | 葉色 (SPAD) |      |     | 新梢停止率 (%) |      |     |
|------|---------|------|-----|------|------|-----|-----------|------|-----|-----------|------|-----|
|      | 本年      | 平年   | 平年比 | 本年   | 平年   | 平年比 | 本年        | 平年   | 平年比 | 本年        | 平年   | 平年比 |
| ゆうぞら | 19.2    | 16.9 | 114 | 18.0 | 15.9 | 113 | 45.1      | 46.2 | 98  | 97.5      | 94.7 | 103 |

注) 平年は、1996～2025 年の平均値

表2 ももの収穫状況

| 品種    | 収穫開始日 |      |      | 収穫盛期 |      |      | 収穫終期 |      |      | 果実重(g) |     |     | 糖度(° Brix) |      |      |
|-------|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|--------|-----|-----|------------|------|------|
|       | 本年    | 平年   | 昨年   | 本年   | 平年   | 昨年   | 本年   | 平年   | 昨年   | 本年     | 平年  | 昨年  | 本年         | 平年   | 昨年   |
| はつひめ  | 6/26  | 7/ 5 | 6/30 | 7/ 1 | 7/ 8 | 7/ 4 | 7/ 6 | 7/11 | 7/ 7 | 301    | 273 | 316 | 11.7       | 11.8 | 13.0 |
| 日川白鳳  | 7/ 2  | 7/10 | 7/ 3 | 7/ 4 | 7/13 | 7/ 6 | 7/ 9 | 7/17 | 7/10 | 288    | 237 | 251 | 12.2       | 11.3 | 13.3 |
| 暁 星   | 7/ 9  | 7/19 | 7/15 | 7/13 | 7/23 | 7/18 | 7/16 | 7/27 | 7/24 | 260    | 222 | 198 | 14.5       | 13.0 | 14.2 |
| ふくあかり | 7/13  | 7/20 | 7/18 | 7/19 | 7/25 | 7/24 | 7/22 | 7/29 | 7/28 | 367    | 274 | 302 | 14.9       | 13.0 | 15.8 |
| あかつき  | 7/21  | 7/29 | 7/25 | 7/25 | 8/ 1 | 7/29 | 8/ 3 | 8/ 7 | 8/ 4 | 395    | 284 | 341 | 13.0       | 13.1 | 14.3 |
| まどか   | 7/28  | 8/ 7 | 8/ 4 | 7/31 | 8/11 | 8/ 7 | 8/10 | 8/15 | 8/11 | 394    | 354 | 323 | 12.7       | 14.0 | 16.9 |
| 川中島白桃 | 8/10  | 8/20 | 8/21 | 未    | 8/23 | 8/27 | 未    | 8/27 | 9/ 1 | 未      | 372 | 364 | 未          | 13.4 | 16.5 |

注) 平年値は、1996～2025 年（「はつひめ」「ふくあかり」は 2010 年～2025 年）の平均

(2) なし

ア 果実肥大

果実肥大を暦日で比較すると、「豊水」は縦径が 72.6 mm（平年比 105%）、横径が 84.7 mm（平年比 107%）と平年よりやや大きい状況です。

満開後日数で比較すると、平年並です。

イ 収穫状況

「幸水」の収穫開始日は 8 月 13 日で平年より 9 日早くなりました。収穫始期の果実重は 356g、糖度は 11.6° Brix でした（表 3）。

ウ 成熟状況

満開後 125 日頃における「豊水」の成熟調査の結果は果実硬度が 7.5 ポンドで平年よりやや高く、糖度が 10.3° Brix で平年より低く、果皮中クロロフィル含量が  $9.0 \mu\text{g}/\text{cm}^2$  で平年より高くなりました（表 4、図 2～4）。果皮中クロロフィル含量に対する果実硬度は平年並でした（図 5）。

表3 なし主要品種の収穫期と果実品質

| 品種     | 収穫開始日 |      |      | 収穫盛期 |      |      | 収穫終期 |      |      | 果実重(g)     |     |     | 糖度(° Brix)  |      |      |
|--------|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------------|-----|-----|-------------|------|------|
|        | 本年    | 平年   | 昨年   | 本年   | 平年   | 昨年   | 本年   | 平年   | 昨年   | 本年         | 平年  | 昨年  | 本年          | 平年   | 昨年   |
| 幸 水    | 8/13  | 8/22 | 8/18 | 未    | 8/27 | 8/23 | 未    | 9/ 1 | 8/28 | <u>356</u> | 393 | 353 | <u>11.6</u> | 12.4 | 13.1 |
| 豊 水    | 未     | 9/ 9 | 9/ 4 | 未    | 9/15 | 9/12 | 未    | 9/21 | 9/16 | 未          | 439 | 482 | 未           | 12.9 | 13.9 |
| 二十世紀   | 未     | 9/15 | 9/11 | 未    | 9/18 | 9/13 | 未    | 9/22 | 9/29 | 未          | 418 | 366 | 未           | 11.0 | 11.8 |
| あきづき   | 未     | 9/24 | 9/17 | 未    | 9/27 | 9/26 | 未    | 10/2 | 9/16 | 未          | 477 | 528 | 未           | 12.9 | 13.5 |
| ラ・フランス | 未     | 10/3 | 10/2 | 未    | 10/3 | 10/2 | 未    | 10/5 | 10/2 | 未          | 314 | 370 | 未           | 13.0 | 14.8 |

注1) 平年値 1996～2025 年の平均値。未は未確定。

注2) 下線部は収穫始の果実品質。

表4 「豊水」の成熟経過

| 生育日数 | 硬度(lbs.)             |      |      | 地色   |     |     | 糖度(° Brix) |      |      | 果皮中クロロフィル含量<br>( $\mu\text{g}/\text{cm}^2$ ) |     |     |
|------|----------------------|------|------|------|-----|-----|------------|------|------|----------------------------------------------|-----|-----|
|      | 本年                   | 平年   | 昨年   | 本年   | 平年  | 昨年  | 本年         | 平年   | 昨年   | 本年                                           | 平年  | 昨年  |
| 125  | 7.5                  | 7.0  | 8.6  | 1.9  | 2.1 | 2.0 | 10.3       | 11.4 | 12.0 | 9.0                                          | 8.1 | 8.6 |
| 生育日数 | リンゴ酸含量<br>(mg/100ml) |      |      | みつ入り |     |     |            |      |      |                                              |     |     |
|      | 本年                   | 平年   | 昨年   | 本年   | 平年  | 昨年  |            |      |      |                                              |     |     |
| 125  | 0.12                 | 0.14 | 0.12 | 1.5  | 1.4 | 1.9 |            |      |      |                                              |     |     |

注) 平年値は、1996～2025 年の平均。本年度は満開後 124 日に調査。

注2) みつ入り指数 1：果実の切断面全体が白っぽく水浸状がほとんど気にならないもの。  
 2：果皮直下の部分がわずかに水浸状を示しているように見えるもの。  
 3：水浸状を示している部分が広く、果皮直下では水浸状部の境界が比較的是っきりしているもの。  
 4：果実切断面の大部分が比較的是っきりした水浸状を示しているもの。

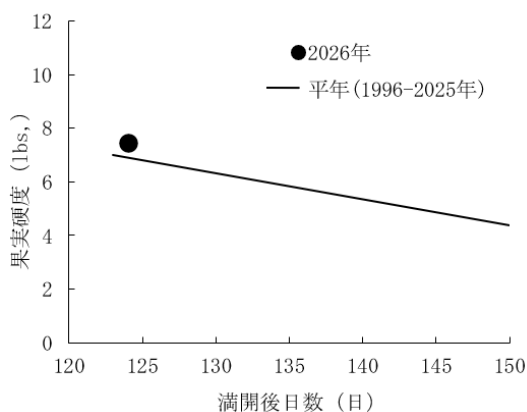


図2 「豊水」の果実硬度の推移

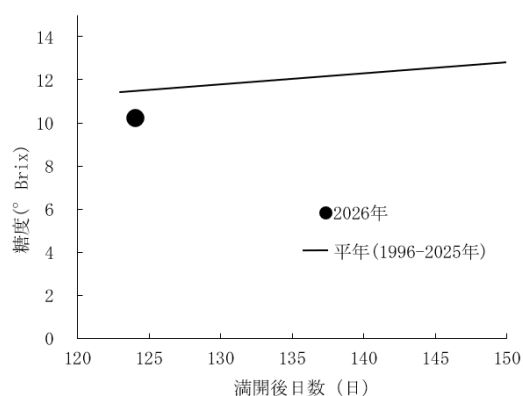


図3 「豊水」の糖度の推移

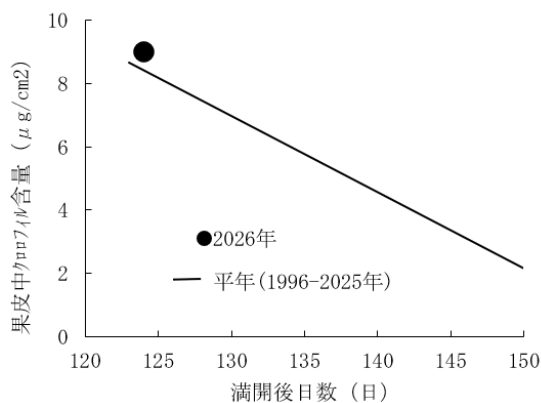


図4 「豊水」の果皮中クロロフィル含量の推移

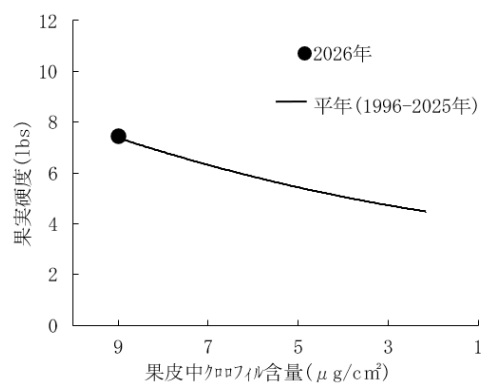


図5 「豊水」の果皮中クロロフィル含量と硬度の推移

### (3) りんご

#### ア 果実肥大

果実肥大を暦日で比較すると、「つがる」は縦径が 79.0 mm (平年比 108%)、横径が 88.0 mm (平年比 105%)、「ふじ」は縦径が 70.2 mm (平年比 105%)、横径が 78.0 mm (平年比 105%)と両品種とも平年よりやや大きい状況です。

満開後日数で比較すると、「つがる」は平年より大きく、「ふじ」は平年並です。

#### イ 成熟状況

満開後 116 日 (8 月 14 日) における「つがる」の成熟状況は、硬度が 12.6 ポンド、デンプン指

数は2.1、糖度は $10.8^{\circ}$  Brix、リンゴ酸は $0.28\text{g}/100\text{ml}$ となっています(図6～9)。

満開後日数での比較では、果皮中アントシアニン含量が平年より低く、果皮中クロロフィル含量は平年より高く推移しています(図10、11)。

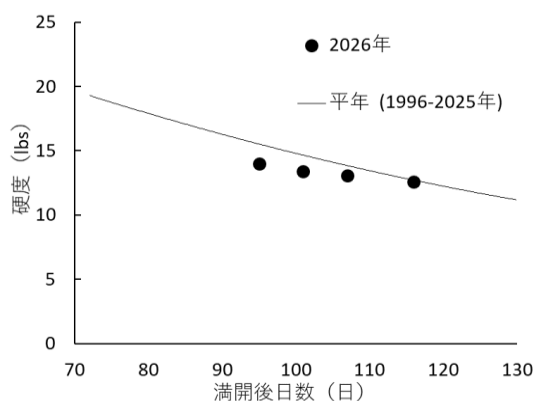


図6 「つがる」の果実硬度の推移

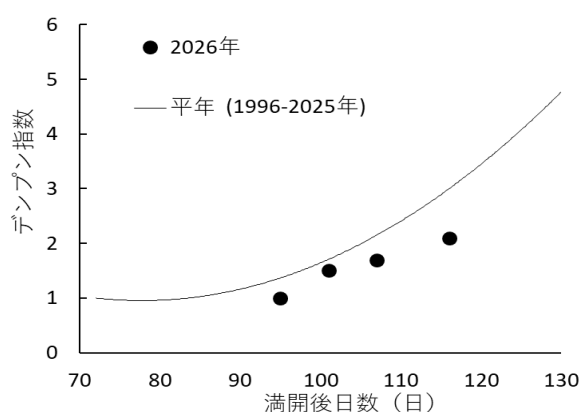


図7 「つがる」のデンプン指数の推移

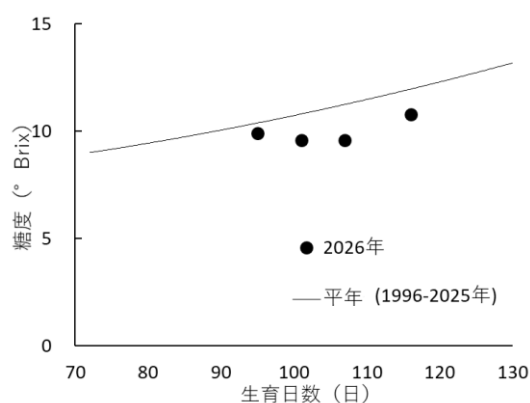


図8 「つがる」の糖度の推移

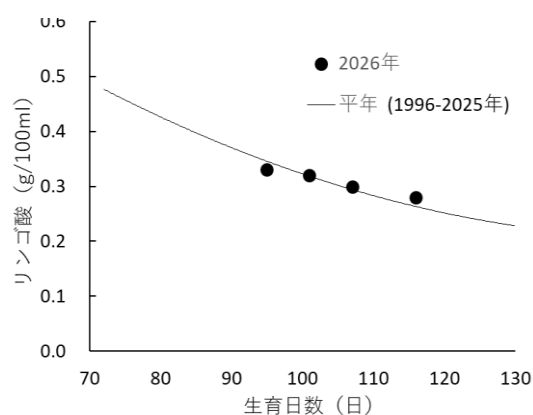


図9 「つがる」のリンゴ酸の推移

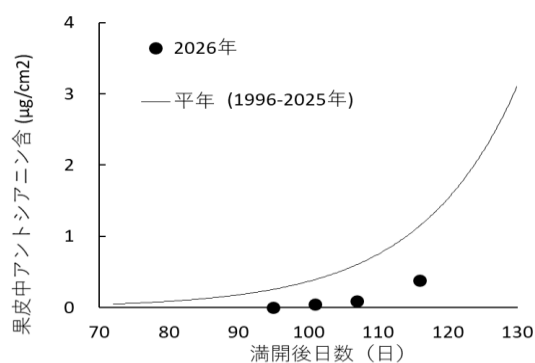


図10 「つがる」の果皮中アントシアニン含量の推移

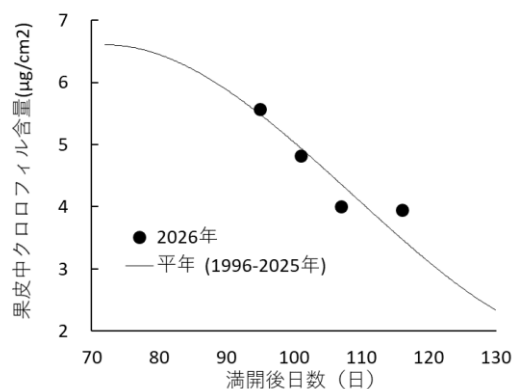


図11 「つがる」の果皮中クロロフィル含量の推移

#### (4) ぶどう

##### ア 成熟状況

8月10日(満開後70日)における「巨峰」の成熟状況は、果皮色が6.7、糖度が $14.3^{\circ}$  Brix、酒石酸含量が $0.99\text{g}/100\text{ml}$ 、糖酸比が14.5となっています。

満開後日数で比較すると、平年より糖度が低く、酒石酸含量が高い傾向です(図12～15)。

##### イ 収穫状況

「あづましずく」(短梢栽培)の収穫盛期は、8月7日で平年より9日早くなりました(表4)。

## ウ 果実品質

「あづましずく」の果実品質は、長梢栽培、短梢栽培ともに糖度及び糖酸比が平年より低く、酒石酸含量が平年より高くなりました（表5）。

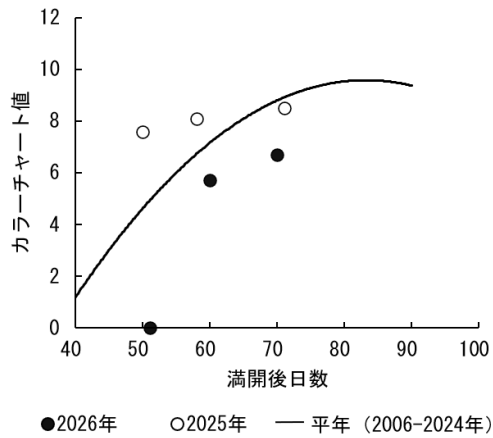


図12 「巨峰」の果皮色の推移

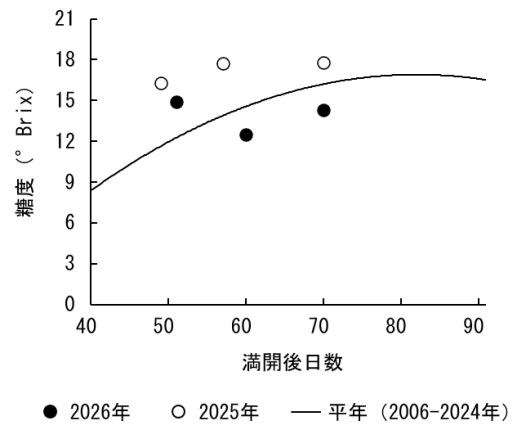


図13 「巨峰」の糖度の推移

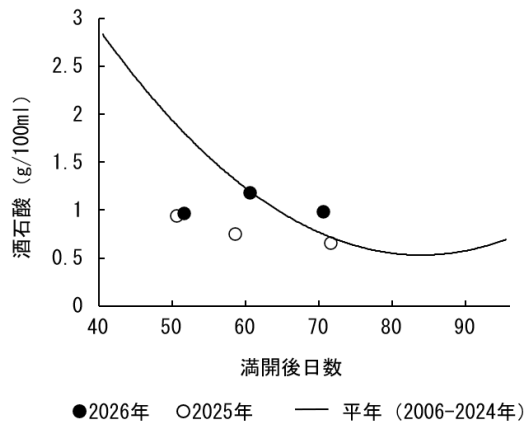


図14 「巨峰」の酒石酸含量の推移

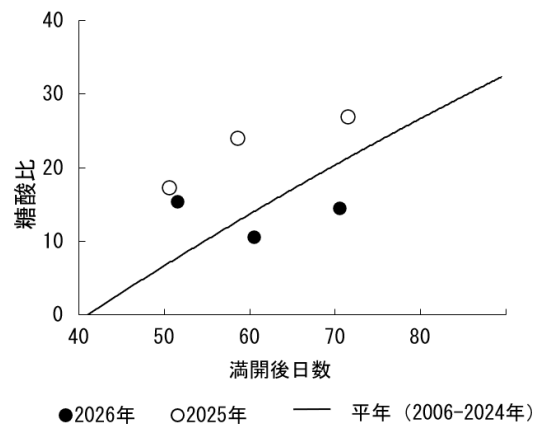


図15 「巨峰」の糖酸比の推移

表4 ブドウ「あづましずく」の収穫状況

| 栽培方法 | 収穫開始日 |      |      | 収穫盛期 |      |      | 収穫終期 |      |      |
|------|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|
|      | 本年    | 平年   | 昨年   | 本年   | 平年   | 昨年   | 本年   | 平年   | 昨年   |
| 長梢栽培 | 8/ 4  | 8/11 | 8/ 7 | 8/ 7 | 8/15 | 8/ 8 | 8/ 7 | 8/18 | 8/12 |
| 短梢栽培 | 8/ 4  | 8/15 | 8/ 7 | 8/ 7 | 8/18 | 8/10 | 8/ 7 | 8/21 | 8/12 |

注) 平年値は、2004～2020年の平均

表5 「あづましずく」の果実品質

| 栽培方法 | 果皮色<br>(カラータッチャート値) |     |     | 糖度<br>(° Brix) |      |      | 酒石酸<br>(g/100ml) |      |      | 糖酸比  |      |      |
|------|---------------------|-----|-----|----------------|------|------|------------------|------|------|------|------|------|
|      | 本年                  | 平年  | 昨年  | 本年             | 平年   | 昨年   | 本年               | 平年   | 昨年   | 本年   | 平年   | 昨年   |
| 長梢栽培 | 10.0                | 9.3 | 9.7 | 17.7           | 18.0 | 19.3 | 0.52             | 0.50 | 0.42 | 33.7 | 36.8 | 46.0 |
| 短梢栽培 | 9.5                 | 8.9 | 9.7 | 17.3           | 17.9 | 18.6 | 0.56             | 0.52 | 0.45 | 30.8 | 35.5 | 41.5 |

注) 平年は2004年～2020年の平均値

## 4 栽培上の留意点

### (1) もも

#### ア 晩生品種の収穫前管理

今後、晩生品種については適期に修正摘果を実施するとともに、夏季せん定や支柱立て、枝吊り、反射シートの設置など収穫前の管理を計画的に実施しましょう。有袋栽培では、適期に除袋するとともに、着色管理作業も計画的に行いましょう。

また、中性種では収穫期が平年より8～10日早く経過しているため、晩生種でも収穫期の前進が想定されます。収穫が遅れないように注意しましょう。

### (2) なし

#### ア 「幸水」の収穫

「幸水」の品種特性として、収穫盛期の降雨などにより急激に土壌水分が増加した後は果皮中クロロフィルや果肉硬度の低下が急激に進むので、収穫が遅れないように注意しましょう。

なお、収穫時の果実温度が高いと果肉軟化が促進され芯腐れ果の発生につながりやすいので、気温の低い時間帯に収穫し、収穫後は涼しい場所に保管しましょう。

### (3) りんご

#### ア 早生種の収穫前管理

気温が高く経過した場合は、日焼け果の発生が多くなるため、葉摘みは日焼けの発生状況を確認しながら数回に分けて行いましょう。

#### イ 早生種の収穫

今後、気温が高温で推移する場合、果肉の軟化が懸念されます。気象の推移に注意しながら着色や果肉硬度に注意して適期収穫を心がけましょう。

#### ウ 落果防止剤散布

「つがる」の落果防止剤としてヒオモン水溶剤を用いる場合には、収穫開始予定日などの農薬使用基準に十分注意して散布しましょう。

#### エ 修正摘果

中・晩生品種は、果実の大きさ、果形、サビ、日焼けの有無等をよく見て修正摘果を行いましょう。

### (4) ぶどう

#### ア 収穫適期の把握

収穫時期は品種、地域、樹勢、房型や着房量によって異なりますので、果皮色や食味（特に糖酸比）、香り等について総合的に判断し、適期収穫を心がけましょう。

#### イ 収穫時の留意点

- a 雨の日やその直後の果実は糖度が低く、日持ちも悪い傾向にあります。収穫前の2～3日が晴天で、当日も晴れている日に収穫するように心がけましょう。
- b 収穫は、日持ちを向上させる目的で果実温度の低い早朝などに行いましょう。
- c 主枝の先端や日当たりが良く登熟が進んだ枝の果実は成熟が早いので、優先して収穫しましょう。
- d 果粉を落とさないため、収穫果実は穂軸を持ち、果粒に直接触らないように注意しましょう。

### (5) 共通

#### ア かん水

土壌の乾燥状況を見ながら、晴天が続くようであれば適度にかん水しましょう。5月から夏期にかけて果樹園からの1日当たりの蒸発散量は、晴天日で6～7mm、曇天日で2～3mm、平均で4mm程度のため、1回のかん水は25～30mm程度（10a当たり25～30t）を目安とし、5～7日間隔で実施しましょう。保水性が劣る砂質土壌などでは、1回のかん水量は少なくして、かん水間隔を短くしましょう。

## イ 草刈り・マルチ

樹と草との水分競合を防ぐため、草生園では草刈りを行いましょう（地表面からの蒸発散量は、草生園において刈り草をマルチした場合、草刈りしない場合の約半分とされます）。

また、刈り草や稲わらのマルチを行い、土壌水分の保持に努めましょう。

## 5 病虫害防除上の留意点

### (1) 病害

#### ア リンゴ褐斑病、炭疽病

リンゴ褐斑病の感染及び発病が増加する時期であるため注意が必要です。本病の発生が多い場合は、中・晩生品種を対象にユニックス顆粒水和剤 47 を 2,000 倍で使用しましょう。なお、散布の際は薬剤の収穫前日数に十分注意してください。

リンゴ炭疽病も発病が増加する時期であるため注意が必要です。本病が発生しやすい黄色系品種や紅玉などでは、薬剤防除のみでは防除効果が不十分であるため、伝染源となる罹病果実の除去を徹底しましょう。

**薬剤散布前には徒長枝の整理等の新梢管理を行い、薬剤の散布むらをなくしましょう。**

#### イ ナシ黒星病

本病の発生が多い園地では、秋期防除として「幸水」収穫後にトリフミン水和剤を 3,000 倍、またはフルーツセイバーを 3,000 倍で使用しましょう。なお、薬剤耐性菌の出現を防止するため、同一系統薬剤の使用回数に十分注意してください。また、発生が少ない園地では今回の防除を省略することができます（参考：令和 4 年度普及に移しうる成果（<https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/566356.pdf>））。

#### ウ モモ灰星病

降雨により灰星病の感染が助長されるため、収穫まで本病の防除を徹底しましょう。樹上で発病が見られる場合は、二次伝染により収穫果において貯蔵、輸送中に発病するおそれがあるため、発病果は園外に持ち出して処分してください。なお、発病果に触れた場合はよく手を洗い、手指による病原菌の媒介を防止しましょう。

### (2) 虫害

#### ア モモハモグリガ

今後の気温が平年よりも 2℃ 高く推移した場合、第 5 世代成虫の誘殺盛期は 8 月 5 半旬ごろと予測され、第 6 世代幼虫の防除適期は 8 月 6 半旬と推定されます（表 6）。

本種の発生は、放任園や無防除のハナモモ等が影響していると考えられるため、こうした発生源が近隣にある園地では、今後も発生に注意しましょう。

#### イ ナシヒメシンクイ

今後の気温が平年より 2℃ 高く推移した場合、第 4 世代成虫の誘殺盛期は、9 月 1 半旬ごろと予測され、第 5 世代幼虫の防除適期は、9 月 3 半旬ごろと推定されます（表 6）。

**本種は、もも等の核果類の新梢伸長が停止すると、なし果実への寄生が増加します。例年、なしの果実被害が多い地域では、近隣のもも等における防除も徹底しましょう。なお、薬剤による防除を実施する場合は、使用基準を厳守しましょう。**

#### ウ カイガラムシ類

今後の気温が平年より 2℃ 高く推移した場合、ナシマルカイガラムシ第 3 世代のふ化開始は、9 月 2 半旬ごろと予測され、ふ化盛期は 9 月 4 半旬ごろと推定されます（表 6）。例年、クワコナカイガラムシ第 2 世代幼虫の防除適期は 8 月下旬から 9 月上旬ごろとなっています。

#### エ カメムシ類

飛来状況をよく観察し、多数の飛来がみられる場合には速やかに防除を行いましょう。

表6 果樹研究所における防除時期の推定（令和8年8月13日現在）

| 今後の気温<br>予測 | モモハモグリガ      |              | ナシヒメシンクイ     |              | ナシマルカイガラムシ   |              |
|-------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
|             | 第5世代<br>誘殺盛期 | 第6世代<br>防除適期 | 第4世代<br>誘殺盛期 | 第5世代<br>防除適期 | 第3世代<br>ふ化開始 | 第3世代<br>ふ化盛期 |
| 2℃高い        | 8月25日        | 8月28日        | 9月4日         | 9月11日        | 9月8日         | 9月20日        |
| 平年並         | 8月26日        | 8月30日        | 9月7日         | 9月16日        | 9月11日        | 9月28日        |
| 2℃低い        | 8月27日        | 9月1日         | 9月12日        | 9月24日        | 9月17日        | 10月16日       |

起算日：モモハモグリガ第4世代誘殺盛期 8月6日（予測値）（演算方法は三角法）  
 ナシヒメシンクイ第3世代誘殺盛期8月11日（予測値）（演算方法は三角法）  
 ナシマルカイガラムシ3月1日（演算方法は三角法）

### 病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

URL: <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

### 福島県農薬危害防止運動を実施中

■農薬使用基準の遵守 ■農薬飛散防止対策の徹底 ■住宅地等における農薬適正使用の推進  
 実施期間：6月10日から9月10日まで。農薬による事故等の未然防止に努めましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 農業革新担当 TEL 024(521)7344  
 （以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。）

URL: <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>